事例 男子！自立クッキング

愛知県愛西市

若い男性の生活習慣病予防を目指し、これから社会で自立した生活を送る可能性のある高校３年生の男子を対象に「男子！自立クッキング」を実施している。

この取組は市と関係機関や団体、市内高等学校等との共同事業として年１回２ケ所で参加を希望する高校３年生の男子を対象に開催している。食の側面から健康的な生活を送るためのスキルを身に付けるよう調理実習と講義を行った。食材は、参加生徒が農業高校で収穫したものや、農産物品評会で入賞した農家のものを使うなど、愛西市でとれたものを積極的に使うことで、地産地消にも目を向けられるようにしている。

実施後のアンケートでは、参加理由として「必要性を感じた」「周りの人に勧められた」が多く、参加者の評判もよかった。今後作ってみたいメニューが多数寄せられるなど、調理実習を通して食への興味が広がっていることが分かった。

今後はさらに食育の輪を広げていけるよう、地産地消メニューや地元農家などの関係機関と連携をとりながら、学校の年間行事として定着できるよう継続して働きかけていく予定。

事例 大学生による食育プロジェクト

宮城県仙台市

次の子育て世代である若者が自ら食育啓発に関わることで、食の大切さについて考え、積極的に食に関わり、自己管理する力を高める機会とし、また、自身の食育活動が社会参加･社会貢献につながることを実感できる場となることを目指して取組を行っている。

平成22年度は「せんだいお弁当ススメ隊」として若者から若者への食育啓発事業を実施した。企画会議を重ねてイベントの企画と準備を行い、「若者集まれ！お弁当フェスタ」として、知る、選ぶ、作るといったテーマごとに学べるような取組を行った。

平成23年度は「地域のみんなが一緒に食べることの楽しさを分かち合える、食の活動」として、仮設住宅での住民参加型の取組など、食育啓発と被災者支援を合わせて実施している。

参加した多くの学生が「自分も含めて様々な人の食について考えることが出来た」と答え、達成度は５点満点中平均で4.4点、今後も継続したいという意見が多く見られた。仮設住宅での取組では、普段人との接触が少ない住民の参加も多く、コミュニケーションの機会となった。参加者アンケートでは９割が「満足」と答えており、今後の開催も予定している。

事例 東松山キャンパス朝ごはんプロジェクト

大東文化大学

大東文化大学では、きちんと朝食をとることなく授業に臨んでいる学生が少なくない現状を受け、学生が規則正しい食生活を確立し、心身とも健康な姿で授業に臨むよう、平成22年度から東松山キャンパスで「食」に関する取組を始めた。

全学部の１、２年生を対象にした全学共通科目として新たに「栄養学」を開設し、生活習慣病やダイエット等の現代社会における食と健康の問題や、豊かで健康な食生活の在り方について考える講義を行っており、前後期６コマの授業を約1,200人が受講している。

併せて生協食堂部の協力を得て低価格でバランスのよい朝食がとれる「朝ごはんプロジェクト」を行っており、主菜と副菜を選択できる和食メニューを提供している。一日100食、１食あたり300円で提供し、そのうち100円を大学が補助している。最近は100食を超える日も多く、来年度は補助対象を150食に増やす予定。

平成24年４月から利用が始まる400人収容の新食堂は、さまざまな意匠をこらした斬新なデザインになっており、ハード面からも豊かな食生活をサポートする体制をととのえている。

事例 「食」を通して地域の魅力と「いのち」について学ぶ

京都府京丹波町

「環境・食育校種間連携パートナースクール事業」として、京丹波町立瑞穂小学校の児童、京都府立須知高校の生徒と京都大学の学生がパートナーとなり、「環境」や命をつなぐ「食」をテーマにした学習活動を行っている。

大学生が高校生や小学生に毎回のテーマに沿った講義を行い、その知識を踏まえ、高校生が先生役となり小学生と実習を行うなど、各学校の知識や技術を伝えあい、瑞穂小学校における地域の特産品「黒豆」「牛乳」「たまご」「食肉」を活用した食品づくりや学習の取組につなげている。

子どもたちにとっては、自分たちが育つ地域の魅力を再発見し、「環境」や命をつなぐ「食」についての理解を深める場となり、また、小学生、高校生、大学院生の三者がともに学び合う機会となっている。今後は連携関係を継続・強化した上で、取組の幅を広げ、充実を図りたい。

牛の秘密を解き明かそう

地元特産品を使用したアイスクリーム作り